

2017 年度「研究者の横顔」 古井 辰郎先生

1. 助成研究の紹介

小児、思春期・若年成人(CAYA)世代にがん治療を経験した人たちにおいては、抗がん剤や放射線治療によって、がん克服後の妊娠・出産が困難になり、長期にわたる QOL 低下の一因になることがあります。一方、不妊治療（生殖医療）の進歩によって、がん治療前の精子や卵子、受精卵の凍結が可能な時代になり「がん・生殖医療」が定着しつつあります。しかしながら、がん治療と生殖医療といった異なる専門分野の医療の実践には、様々な障害もあります。本研究では、関連学会との協力により地域医療連携体制の全国展開、啓発活動、人材育成を通じた、CAYA 世代がん患者・サバイバーの将来の妊娠・出産を支援する体制構築の研究を行っています。

2. 前年度からの研究の進捗状況

岐阜県をはじめとして開始された、地域がん・生殖医療連携が、2017 年には広島、大阪、京都、三重、群馬でも開始され、合計 18 府県で稼働中です。また、このシステムをより良いものとするため、ナビゲータ制度、助成金制度などの提言などの発信、がん治療学会、がん・生殖医療学会等との協力によって、ガイドライン、診療手引きなどの出版物、啓発活動としては公開講座や講演会なども行っています。

3. 全国の RFLJ 関係者に一言

本助成制度を活用し、希望を持ってがん治療と向き合える診療体制を生殖医療の角度から考えていきたいと思っております。よろしくご支援お願いいたします。